

高崎市立高崎経済大学附属高等学校 学校評価一覧表② (令和3年度版)

(様式2)

評価対象	羅 針		達 成 度			改善状況のまとめ	学校関係者評価	次年度の課題
	評価項目	具体的数値項目	①	②	総合			
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 高大連携に努めていますか。	① 大学との連携に努めていると感じる生徒が80%以上である。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> オンライン等によりオナークラスを中心とした高大連携を実施した。理系では、出前授業などオナークラス以外の生徒も対象とした高大連携事業も実施できた。 海外研修高大連携と外部機関と連携しエンパワメントプログラム、オンライン国際交流及びJICA出前講座を実施した。 1, 2年における「総合的な探究の時間」で「仕事インタビュー」を企画して、社会人との交流の機会をつくるなど社会に出て役立つ能力・態度の育成を図った。 	高大連携事業については、文部科学省によるスーパーグローバルハイスクール指定事業での取組を継承しながら、発展を図る格好である。次年度から新学習指導要領が本格的に実施になることから、その趣旨を十分に踏まえ、国際理解教育の工夫とともに、社会に開かれた教育課程の一層の充実など、学校の特色づくりを推進できるとよい。総合的な探究の時間では、NPO法人との外部連携による充実が見られ、次年度、探究コーディネーター設置の効果も期待する。	<ul style="list-style-type: none"> 学年全体が関わる高大連携事業の一層の充実を図る。学習指導要領の改訂を踏まえて、高校3年間を見通した事業全体の在り方について、不断の見直しを行う。 ICT活用や外部連携を一層推進し、国際交流事業の見直しや充実を図り、時代や情勢に合わせた研修を生徒に提供する。 「総合的な探究の時間」を系統化して、キャリア教育の一層の充実を図る。今後、育成したい能力・態度を身に付けるため、教育課程について充実を図る。
	2 国際交流の機会をつくり、国際理解に努めていますか。	② 海外との交流やエンパワメントプログラムなど、国際理解の場があると感じている生徒が80%以上である。	A	A	A			
	3 キャリア教育の充実に努めていますか。	③ 社会に出て役立つ能力・態度が身に付いたと感じている生徒が80%以上である。	A	A	A			
II 安心安全な学校づくりに努めていますか。	4 生徒主体で「いじめ」のない学校づくりを推進していますか。	④ 「いじめ防止基本方針」について、生徒に説明していると認識している生徒が80%以上である。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> いじめ防止フォーラム等を開催して生徒が主体的にいじめについて考える機会を設け、外部講師を招いて人間関係作りのための行事を多く実施した。 コロナ禍において、避難経路の確認等を工夫しながら防火避難訓練を実施した。救急救命士による講演会を実施するなど職員及び生徒の防災意識向上に努めた。 校内の施設の不備による事故の発生は0件であった。ただし、校舎・体育館・設備の老朽化が進んでいる。 	いじめをなくすためには、生徒自らが「いじめをなくす」という意識を持って、持ちこたえようとする姿勢が重要である。今年度、いじめ防止フォーラム等を開催する。また、外部講師を招いて人間関係作りなどの行事を実施できたことは評価できる。これから生徒の主体性を大切にし、いじめの防止、早期発見など組織的な対応に努めてもらいたい。校舎・体育館・設備の老朽化が進んでいるが、何らかの機会に改善できるとよい。	<ul style="list-style-type: none"> 県教育委員会などから発信される動画や外部講師の招聘等を効果的に活用し、生徒が主体的にいじめの根底にある問題を捉えることができるような活動を設定する。 学校施設の老朽化に伴う校内危険箇所の正確な把握に努め、生徒が安全に安心して活動できる教育環境整備に努める。この中で体育館の床の老朽化については、授業及び部活動での事故発生の危険性が認められることから、その修繕を図る。
	5 防災対策を職員・生徒に徹底していますか。	⑤ 大地震や火災が発生した際に、全ての職員・生徒が適切な対応をとることができる。	A	A	A			
	6 校内の施設の安全点検に努めていますか。	⑥ 校内施設の不備による事故の発生は0件である。	A	A	A			
III 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	7 工夫して分かりやすい授業を行っていますか。	⑦ 授業に対する、生徒の評価を学期ごとに実施して、授業改善に生かしている。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 2回の授業評価アンケート(選択式、自由記述式)を実施し、生徒の率直な意見を参考にできるようにした。また、定期的に他教員の授業を参観できる機会を設け、授業改善に努めた。 オナー授業改善や探究活動、学校説明会等で、生徒の発表機会を設けた。 校内研修や教員相互の授業参観を通して学習支援アプリ「ロイロノート」等の活用法や生徒の考えを共有できるような工夫について理解し、授業改善を図った。 	一人一台iPad活用を推進するために、全普通教室にプロジェクターを常設するとともに、生徒会組織に情報委員会を新設して生徒の主体的活動を促す取組は評価できるといえる。これにより、生徒の主体性の育成も進んでいる。また、コロナ禍で教育活動が制限される中、生徒の発表機会を工夫して実施できたことは、生徒の率直な評価が各教員の励みになり、一層の授業改善に直接結び付くと感じる。	<ul style="list-style-type: none"> 各教室に設置したプロジェクター等を利用し、ICT活用を更に進め、より深い学びができるように、授業改善を図る。 コロナ禍で得た知見を生かしながら、ICTを活用した発表方法等を工夫して、生徒に身に付けさせた一層の育成を図る。 各教科等の目標を明確にしたうえで、目標達成に必要な手立てとして、協働的な学習を取り入れるように組織的かつ計画的に取り組む。
	8 発表する場面で、表現力の育成に努めていますか。	⑧ 生徒の80%以上が自分の意見や考えを発表する機会があると感じている。	A	A	A			
	9 主体的・協働的な学習を取り入れていますか。	⑨ グループ学習やペア学習を取り入れている授業が80%以上である。	A	A	A			
IV 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	10 規則正しい生活習慣を身に付けさせていますか。	⑩ 安易な欠席・遅刻・早退をさせない指導を徹底し、学年平均の遅刻率(人/日)を4以下にする。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍ではあったが、各学級担任等による日々の生活指導を工夫し、多くの生徒は安易な欠席・遅刻・早退がなくなり、規則正しい生活習慣を定着させた。 父母の会、教育振興会と協力し、校門は前の1, 2年生のヘルメットの着用率は100%にできた。ただし、高崎警察署等の外部機関との交通安全運動は、10月22日と11月11日の年2回の実施に留まった。 担任による二者面談をきめ細かに実施するとともに、教育相談アンケートを計画的に実施し、いじめの早期発見・解決に向け、組織的な対応を行った。 	新型コロナウイルス感染症の影響が大きい一年であったが、オンラインによる取組を工夫するきめ細かな支援がなされていた。交通安全全指導では、生徒への啓発活動は大切である。ヘルメット着用率100%に向けて、例えば、「コンクリートの上にスイカを落としてみる」といった、リスクを啓発につなげるような、視覚に訴える方法を用いて説明することも考えられる。学校近隣に住んでいるが、登校時のヘルメット着用状況はともいえず、下校時には、一部生徒に自転車の並列走行やヘルメット未着用等をみることがあり、引き続き、事故防止に向けて注意喚起を重ねてほしい。	<ul style="list-style-type: none"> 学級担任や学年職員による面談や日々の声掛けを継続し、学校生活の基盤となる生活指導を職員全員で取り組む。遅刻が多いなど不安要素のある生徒には生活習慣改善のための指導を粘り強く行う。 ヘルメット着用率100%に向けて、学校から離れた場所での交通安全指導を段階的に進めるなど一層の強化を図る。また、外部と連携し、生徒自身がその重要性を捉えるよう粘り強く指導する。 いじめに対して法に則って対応をしながら、いじめにたいしてという意識を職員全体が持つよう研修を定期的に行う。面談や教育相談アンケートは今後も定期的に行い、生徒をしっかりと支援する。
	11 交通規則を遵守し、交通事故を起こさないようにさせていますか。	⑪ 重大な交通事故を未然に防ぐ。警察署等と連携し交通安全運動を年3回以上実施し、1, 2年生ヘルメット着用率100%を目指す。	B	A	A			
	12 学校は、いじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に進めていますか。	⑫ いじめ発生件数0を目指した教育活動に取り組み、方がいじめが発生した場合には組織的にその解決を図る。	A	B	B			
V 生徒の主体的な進路選択に適切な指導をしていますか。	13 生徒の進路意識の高揚に努めていますか。	⑬ 大学見学や職業人講話、進路講演会などの進路行事に積極的に参加したと自己評価できる生徒が、80%以上である。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍でオンラインを併用した様々な進路行事を通して生徒の進路意識高揚を図ることができた。学問分野別大説明会や医療系分野別説明会、働く大人の特別授業など個々の進路希望に合わせて対応でき効果的であった。 多くの生徒が自己の特性を考慮し、進路情報の収集に努めている。面談の機会を多く設け、進路実現への支援を図った。 	総合的な探究の時間では、外部連携を充実させ、各学年の実態に応じて、将来の進路を自ら考えるキャリア教育の充実を図っている。今後も、地域に貢献し、地域を盛り上げてくれる人材を育てていきたい。これから、高校3年間を見据えた進路行事の計画と実施に取り組み、生徒の主体的な進路選択に向けた支援を一層充実できるとよい。	<ul style="list-style-type: none"> 校務分掌間で連携して、高校3年間を見据えた進路行事の計画・実施に取り組む。特に総合的な探究の時間では、実態に応じて外部機関と連携し、より一層の充実を図る。 生徒が適切に文理選択を行うことができるように最新の進路情報を積極的に提供する。そして卒業時に納得できる進路を選択できるような支援する。
	14 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	⑭ 自分の適性を理解し、進路に関する情報を自ら得ようと努めている生徒が、80%以上である。	A	A	A			
VI 開かれた学校づくりに努めていますか。	15 保護者や地域住民に向けて情報を積極的に発信していますか。	⑮ 保護者の80%以上が学校は積極的に情報を発信していると感じている。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> Webページについて、作成ソフトを変更するとともに担当職員の増員を行い、迅速な更新に繋がった。また、外部報道機関への情報提供を積極的に進め、地域の方々に対する、広報活動を充実させた。 授業公開及び学校公開は中止となったが、学校説明会や部活動体験会等は感染症対策を講じながら実施できた。 父母の会や高崎警察署等と連携し自転車ヘルメット着用や交通マナーの向上について指導を行うことで、地域住民からの信頼が得られる生徒の育成を図った。 	ハイスクールガイドの工夫やWebページでの積極的な配信など広報活動が充実している様子が見られた。保護者には学校の様子が分かりやすく伝わったのではないかと。一方で、地域住民はWebページをあまり見ない方もいることから、地域の回覧版等での発信も検討してはどうか。また、地元区長等の連携による地域課題とともに考える機会を設けてもよいかもしれない。いづれにせよ、開かれた学校づくりの成果による、本校は中学生にとって最も魅力のある進学希望の一つとなっている。	<ul style="list-style-type: none"> 文書や画像だけではなく、動画による情報発信を充実させ、Webページの魅力を向上させ、更新の即時性も高める。 授業公開及び学校公開を感染症対策を講じて実施できるように企画する。学校説明会や部活動体験会は中学生にとってより魅力的なものになるよう改善を図る。 総合的な探究の時間における職業人インタビュー等、生徒が地域住民と直に繋がる機会を活用し生徒に本校生としての自覚を促すとともに地域住民に生徒や学校の様子を理解してもらいたい。
	16 授業公開、学校公開に努めていますか。	⑯ 本校保護者だけでなく中学生やその保護者対象の授業公開等で合計二十人以上の参加を得る。	B	B	B			
	17 地域住民から信頼される高経附の生徒を目指していますか。	⑰ 地域住民や生徒の保護者の80%以上が高経附の生徒や本校の教育活動を評価している。	A	B	B			
VII 教育のデジタル化に努めていますか。	18 ICTを活用した指導を行っていますか。	⑱ 生徒の80%以上が、ICTを活用した学習を行うことで理解が深まったと感じている。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 約90%の生徒がICTを活用した学習により理解が深まったと感じており、ICT機器を学習に活用する習慣をある程度定着させることができた。 学校からの連絡や情報発信でデジタル化を強化した。特に、保護者による生徒の欠席連絡にもICTが活用できるようにし、効率化を図った。 	本校は早期に一人一台デバイスを導入し、ICT活用の充実を図ってきた。今後は、義務教育段階でICTを活用した子どもたちが入学してくることを想定して、一層の充実を図ってほしい。なお、大学では、今後、入学生全員にコンピュータ購入を義務づけてはどうかという意見も出ている。	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器については、引き続き、より効果的な活用方法等の研修機会を設け、生徒の学びの深化に向けた授業改善に活かす。 ICT機器を活用した保護者との連携方法等に関する検討を進め、学校からの通知を確認しやすくするための方策の一層の工夫を図る。
	19 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	⑲ 保護者の80%以上がICTを活用することで学校からの通知が確認しやすくなったと感じている。	A	A	A			

※ A 十分達成できた B 達成できた C もう少しで達成できた D 達成できなかった